

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173600123		
法人名	社会福祉法人 緑陽会		
事業所名	グループホーム竹とんぼ		
所在地	苫小牧市字樽前222-11		
自己評価作成日	平成30年1月6日	評価結果市町村受理日	平成 30年 3月 20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=0173600123-00&PrefCd=01&VersionCd=02
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町5丁目2-35コーポラスひかり106号		
訪問調査日	平成30年1月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・樽前山の麓自然豊かな環境に囲まれており、四季の移り変わりをゆっくり、気持ちよく感じて頂ける様、入居者様のケアに反映させている。地域との関わりを大切に地域行事、運動会等に参加したりと交流に努めている。</p> <p>・入居者様一人ひとりの思いや背景を理解した中で、常にその人らしさと個々の可能性を考えながら、穏やかに安心、安全な暮らしが続けられるように支援している。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当事業所は樽前山の麓に位置し、四季の移ろいを満喫することが出来る自然豊かな地にある。鉄筋コンクリート造り平屋の建物は、同法人が運営する特別養護老人ホームに併設されている。同法人は多くの福祉施設を運営し協力体制の下、会議や研修会、行事などを合同で行い、事例を共有しながら質の高いケアに取り組んでいる。利用者は地域の運動会に参加したり、地域文化祭に作品を出展したり、お祭りには子供神輿が来訪し、事業所行事のパーベキュー祭り、緑陽園祭で地域住民、家族と共に交流を深めている。看護学生の実習受け入れも多く、地域社会との繋がりを大切にしている。近くには協力医療機関があり24時間対応の連携が確保され、併設の特別養護老人ホームの看護師による健康管理など利用者、家族の安心に繋がっている。管理者は、職員の育成にも力を入れており、外部研修等へ積極的に参加させ、毎月の内部研修で質の向上につなげている。管理者、職員は「その人らしい生活スタイルを援助する」と云う理念を意識確認し、利用者のその人らしさを大切に、一人ひとりの主体性が尊重され、ありのままを受け入れたケアサービスを実践している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関、管理者室に理念を掲示して意識、確認を行えるようにし、実践に繋げている。毎月のケア会議においても、参加者で確認し共有を図っている。	理念を玄関、管理者室に掲示し、毎月の会議や日々のケアの中で確認し共有している。利用者の思いを探りながら権利や、楽しく自然の中で生活出来るよう支援に繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として町内の運動会、文化祭には作品出展を行い、地域参加に努めている。その他町内のお祭りには、子供神輿がホームに来て下さる等の交流を図っている。ホームの行事などで地域の方々との交流を深めていきたいと考えている。	町内会に加入し、子ども神輿が事業所に来所し交流を図ったり、併設施設との合同行事には家族や地域住民も参加して交流をしている。また、樽前総合文化祭に利用者の作品を出展し地域との交流を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族や町内会の方に認知症ケアのあり方についてお伝えすることにより、地域に広がっていくように努めている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一度、運営推進会議を開催し現況報告している。常に情報や意見を伺い、サービスの質の向上に努めている。	市介護福祉課担当者、地域包括支援センター職員、町内会会長、家族等が参加して年6回開催している。運営状況、事故報告、行事、避難訓練、研修状況などを報告して意見や助言を得て、サービス向上に活かしている。	会議では、運営状況、事故報告、行事などを報告しているが、ヒヤリハットについても報告し、意見や助言を得ることを期待する。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にて意見を聴取したり、運営上の相談をさせて頂いている。	市担当者とは運営推進会議参加時に相談したり、指導、助言、情報を得ている。不明な件は電話で確認し、事業所のケアサービスの取り組みを伝えながら協力体制を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修を行い、身体拘束廃止の取り組みについて確認している。共通認識を持って、身体拘束の無いケアを提供している。玄関は防犯上、夜間19:00～7:00まで施錠している。	外部・内部研修で身体拘束をしないケアを学び、身体拘束の弊害を理解してケアに取り組んでいる。外部研修に参加した職員は会議の中で報告、ケア会議で話し合い職員全員が禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関は防犯上夜間のみ施錠している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修及び内部研修にて虐待と疑われる内容等を確認している。利用者様の心身の状態を常に意識すること、言葉遣いや態度に注意を払い支援している。職員がストレスを溜めないよう、良好なコミュニケーションを図るよう意識している。			

グループホーム竹とんぼ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議や地域包括支援センターから情報を得る等して、活用に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはご家族様に理解して頂ける様に時間をかけて説明している。解約時や改定の際も同様に、安心して頂けるよう、十分な説明に努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情ボックスを設置し対策委員会を設けている。運営規定、重要事項説明書に外部第三者委員の氏名を明記している。ご家族様の訪問時やお電話にて近況報告を行い意見を聴取している。利用者様家族様アンケートを行い運営に反映させている。	毎日の会話などから利用者の意向の把握に努め、家族とは、来訪時に近況を報告し、意見、要望を聞いている。多くの家族の来訪があり意見を聞く機会はあるが、更に率直な意見を聞く取り組みとしてアンケートを実施して運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者にはいつでも連絡・相談・報告できる体制にあり、日常から意見が言いやすい環境づくりに努めている。毎月のケア会議や連絡ノート等により意見の出易い仕組みを作っている。出された意見は会議にて話し合い、反映させている。	管理者は各職員からの日常業務や支援方法に関する率直な提案や気づきを尊重する姿勢を維持している。連絡ノートやケア会議、職員会議で意見、要望を話し合い運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規定に従っており、勤務実績表等や報告・連絡・相談により個々の職員状況を把握している。また、平成27年度より職員異動意向調査を行い、各自の向上心への働きかけや職場環境の整備、開発に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人主催の研修会や竹とんぼ内部研修を開催している。外部研修へもすすんで参加している。ケア会議の中で報告会を行ない情報共有を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者を受け入れたり、各種研修会へ参加し、親交を深めている。苫小牧グループホーム連絡会に参加し、情報の発信、情報の取入れを通じてケアの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申込みの時点から利用予定にある方へ可能な限り同席をお願いしている。入居までに出来る限りの情報収集に努め、入居後もご本人様、ご家族様から伺う等し、信頼関係を築けるように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族からお話を伺い、入居後も継続して支援できる様に関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様と話し合い必要なケア環境を検討するように努めている。入居申し込み時他種の施設案内をしており、その方に合ったケアの選択、提供について説明し対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念に基づき、利用者様のそれぞれの思いを受け止め、支え合う心を養っている。したい事、出来ること、あらゆる出来事を認め合い、共に暮らす者同士の関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の望むケアが出来るよう面会時や電話による近況報告を通じて意見交換を行い、共に支えていく関係づくりに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望時の外出、外泊支援や面会を自由にして頂き、これまでの大切な関係が途切れないよう支援に努めている。特に外泊支援が出来る限り続けられるよう家族様への支援やご本人様の健康管理には十分に注意を払っている。	自宅を訪問したり、知人宅に家族と共に出掛けたりと、利用者の希望をできるだけ叶える取り組みを行い、馴染の関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの思いを大切に、協力し合ったり、支え合う関係性を形成しながら、皆様が穏やかに生活出来るように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの関係性を大切にしていき、ご本人様、ご家族様の要望があれば、相談等に応じていけるようにしていきたいと考えています。				
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント							
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントシートに記載される日々の暮らし、支援状況を情報源とし、本人様から発せられる日常会話、態度を考察しながら本人らしさを探り、把握に努めている。家族様から意見を伺い、本人に照らし合わせ、本人本位となるべき姿への追究を図っている。	日頃の関わりの他、アセスメント・家族の面会時、行事等の機会を利用して意向の把握に努め、把握した意向は記録や日々のミーティングで共有し、希望や意向に添うよう支援している。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居契約時に生活歴や好みなどを伺い、収集していく他にライフヒストリー表への記載を家族様にお願いしている。本人様からの話を元に家族様にお伝えし、意見や情報を得てサービス提供に活用している。				
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントシートに出来事や変化を記載し、毎日参照することで一人ひとりの状態や有する能力、暮らしの傾向を把握している。バイタル測定、一般状態の観察を行い心身状態の把握に努めている。				
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様の可能性を主に、家族様からの要望を聴取すると共に毎月担当制によるモニタリングを行い、ケア会議の中で意見交換を行っている。その方らしさを反映した介護計画を作成して、状態変化の際には現状に合わせた介護計画になるよう変更を行っている。必要に応じて医療従事者に相談している。	利用者・家族の意向を反映させて、介護記録に日々の気づきや変化を記録し、ケア会議を開催して課題とケアのあり方について話し合い介護計画を作成して家族の同意を得ている。状況に変化が生じた時はその都度現状に即し見直しを行っている。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のアセスメントシート記録、ケア実践状況記録や連絡ノートを活用し、情報共有を図っており、介護計画の見直しにも活かしている。				
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様、家族様の意見、要望や医療連携機関からの助言を頂き、その方にとって最適な暮らし、サービス提供が常に出るように努めている。				
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣地域との関わりの中で互いにいつでも連絡が取り合える関係づくりに努めている。豊かな自然環境をケア、暮らしに取り入れている。				
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様、家族様の希望に応じ、相談を行いながら、かかりつけ医を決めている。協力医療機関の定期往診(受診)、歯科往診(受診)等もやっている。併設施設の看護師との医療連携体制も整っており、適切な医療支援が行えている。家族様に協力して頂き受診支援を行っている。	本人、家族の希望に添ったかかりつけ医に受診出来るよう支援している。かかりつけ医の受診は職員が同行して適切な医療を受けられるように支援している。併設施設の看護師との医療連携による支援体制も整っている。			

グループホーム竹とんぼ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の特別養護老人ホーム看護師との医療連携体制が整っており、日常的な健康管理や緊急時の相談が可能である。協力医療機関においても、すぐに相談できる環境にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関等の医師、看護師、ソーシャルワーカーらと情報交換を行い状態把握と今後の治療方針、ケア方法等を話し合い、本人様、家族様が安心できるようにしている。早期退院できるように関係者との連絡を密にしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の指針を整備している。また、終末期の看取りについて事前確認書を入居後にご案内させて頂いている。事業所が出来ること、出来ない事を家族様、医師、看護師、スタッフと話し合い、方針を共有している。	入居時に終末期の指針に基づき、利用者、家族に事業所として出来ること出来ないことを説明し同意を得ている。重度化した場合は、本人や家族、医師、看護師など関係者と話し合い、方針を共有して希望に添えるよう支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習講座を受けており、緊急時マニュアルを整備している。スタッフの連携により緊急に備えるよう取り組んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練や通報訓練、自然災害訓練、消火器取扱い訓練を実施している。マニュアル、連絡網を整備している。消防署、地域住民、併設施設との連絡体制が整っている。	年2回、消防署の指導、地域住民、併設施設の参加、協力を得て避難訓練を実施している。火災・自然災害のマニュアルが整備され、独自の備蓄品の他、併設施設には発電機、燃料などが備蓄されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳のある生活を援助している。一人ひとりのプライバシーに配慮し傷つけない声掛けや記録の取り方に留意している。	研修では不適切な接遇などを取り上げ、人格の尊重とプライバシーに配慮し、言葉かけに気をつけて、尊厳や誇りを損ねないケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その人らしい生活が送れる様に、好みや言動、意向を伺い自己決定して頂ける様に気持ちを尊重した支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人ひとりのペースや気持ちを把握し、年齢や心身の状態に合わせたケアを心掛けて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方の習慣を大切に、洋服や化粧品等の好みが続けられるよう家族様の協力を頂きながら維持出来るように支援している。		

グループホーム竹とんぼ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	併設施設の栄養士が献立作成している。食事の盛り付け、お米研ぎ、食器洗い、テーブル拭き等には、その時の関心や力量を把握した上でお誘いし協働している。その方が心身に負担を抱えないよう配慮している。	献立は併設施設の栄養士が作成し、利用者は能力に応じ、盛り付け、食器洗いなどを職員と一緒に行って一人ひとりの力を活かしている。又、誕生日にはお祝いのどら焼きを作り、食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは併設施設の管理栄養士が作成しており、バランスのとれた食事が提供できている。入居者様の嗜好や形状に合わせて提供し、アセスメントシートに摂取量等を記載し把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その方の能力に応じて声掛け、促し、提供を行っている。協力医療機関への受診時に具体例を挙げ相談をし、助言やアドバイスを頂いて、ケアに活かしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄状況を記録にて把握し、排泄に関係する仕事を確認している。声掛けや促しにて、清潔が保たれるよう努めている。排泄関連用品は家族様と相談し、その方に相応しいものを選択し自立に向けた支援に努めている。	チェック表で個々の排泄パターンを把握し、表情、態度などから、適時にさりげなくトイレに誘導し、排泄の自立に繋げている。ポータブルトイレを使用する利用者もいるが、自立に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	生活行動パターンの把握と飲食物の用量、排便周期(期間)、排泄物量、形状を記録にとり便秘状態が確認できるようにしている。食物繊維(粉末)を提供したり、座位姿勢や日常生活動作の変化に応じて改善、予防が図られるようスタッフで話し合っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は開始時間や曜日は固定せず、入居者様の体調と希望を伺い実施している。入浴中はその方の好む温度や入浴時間を尊重し満足されるよう努めている。	入浴の曜日や時間帯は利用者の体調や希望に合わせて支援をしている。また、入浴拒否の場合は間隔をおき声掛けしたりして、一人ひとりに沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を尊重し、ご様子を確認しながら休息をとって頂いている。安心して気持ちよく眠れるよう本人様のタイミングで就寝等の支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	与薬手順マニュアル、入居者個別内服薬リストを整備しており、いつでも確認出来るようにしている。常に体調に変化が起きていないか観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの趣味やしてきた事などを日々の対話や家族様からの情報も大切にすると共に、生活習慣を把握しながら支援している。家事全般などの得意分野への支援や、職業に基づいた役割も支援として取り組んでいる。		

グループホーム竹とんぼ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの生活習慣に相応しいかを考えながら、体調に留意し希望を尊重した中で、テラスへ出たり、散歩へお連れしたり、車に乗って出かけたり、外の空気に触れる機会を作っている。地域行事への参加や季節を感じられる外出支援を心掛けている。	天候の良い日には、日光浴、周辺を散歩したり、買物、花見、ドライブに出掛けたりして外気に触れる機会を作って日常の生活に潤いと変化を提供するよう工夫している。また、家族と外食する事もあり希望に沿った外出支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様、家族様の要望を伺い、所持を認めている。金銭の使用時には気軽に使用できる様、見守りや声掛け等の支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居室に電話を引ける様になっており、希望時は設置して頂いている。贈り物や手紙が届いた際には本人様に同席して頂いて、電話連絡をして頂いている。事業所からの連絡に対しても、本人様を電話口にお誘いし、声を聞かせる等の支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々とした居間をリビングとダイニングに区分けし、一人ひとりが思い通りの行動により居場所を作りやすいように工夫している。椅子を多く配置し座って休んでもらえるように整備している。四季の飾り(作品展示)、思い出の写真が目に入るように掲示している。	玄関は日本家屋の落ち着いた訪問しやすい雰囲気を出し、居間は広く季節感ある飾りつけや行事の写真が飾られ、ソファの配置などゆったり過ごせるよう工夫されている。また、畳の小上がりがあり、利用者は、会話をしたり、思い思いに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人掛けソファ、三人掛けソファを設置したり、共用空間内には多くの椅子を配置している。畳の小上がりもあり、各々が独りになりたい場合や気の合う方と共に出来るような、心地よい空間作りに配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	クローゼットと洗面台は備え付けてある。使い慣れた家具や食器、ベッドや寝具類、飾り物、写真などの馴染の物全般を入居時にお持ち下さるようご案内している。各々が居心地良く自室で過ごせるように工夫している。	床暖房で居室全体が暖かく、クローゼット、洗面台が備え付けられ、使い慣れた家具や日用品等を持ち込み、家族等の写真を飾って居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーであり、手すりを設け安心して歩行出来るようにしている。ご自分の居室がわかる様に表札や顔写真を掲示している。能力に合わせて室内の模様替えを本人様と一緒に実施している。		